

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 05020210

政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	9	障がい者支援の充実	事業優先度	B		
単位施策	1	生活支援の推進	政策事務分類	1	単独自治事務(例規)	
事業名	重度心身障害者医療給付事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	5	保健福祉課	
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	医療費助成対象者数			#N/A		
事業目標	全対象者の医療受診環境の整備		ハード/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
住民参加	無		関係例規・法令名	有	雄武町重度心身障害者及びひとり親家庭等の医療費の助成に関する条例	
住民協働			関係個別計画名	有	雄武町障がい者計画	

全 体 計 画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	身障者手帳を所持する、1級・2級もしくは3級の 内臓障害の方、療育手帳を所持するA判定の方、 1級の精神障害者手帳を所持する方について、 医療費(医療保険適用分)の一部を助成する。 原則1割の自己負担が生じるが、非課税世帯の 場合は自己負担が軽減される。 所得制限がある。	重度心身障害者の医療費を 助成する。	重度心身障害者の医療費を 助成する。	重度心身障害者の医療費を 助成する。	重度心身障害者の医療費を 助成する。	重度心身障害者の医療費を 助成する。	
	事業費(千円)	56,520	14,000	10,630	10,630	10,630	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	26,400	5,280	5,280	5,280	5,280	
	地方債	0					
	その他	3,340	3,300	10	10	10	
実績事業費	事業費(千円)	21,623	12,269	9,354	0	0	
実 績 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	7,212	3,730	3,482			
	地方債	0					
	その他	7,189	4,799	2,390			
		7,222	3,740	3,482			
関 連 事 項	特定財源の名称	【評価・実績】	(実施内容等) 重度心身障害者医療給付 ・医科外来850件・入院95件 ・歯科 79件 ・調剤 601件 ・指定訪問看護 12件 対象人員 112人 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 重度心身障害者医療給付 ・医科外来811件・入院103件 ・歯科 62件 ・調剤 525件 ・指定訪問看護 14件 対象人員 83人 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等)	(実施内容等)	
	道支出金 重度心身障害者医療 給付事業補助金 その他 高額療養費還付金		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
	前期計画からの継続 (継続有り)		年度目標値	全対象者への医療費助成	全対象者への医療費助成	全対象者への医療費助成	全対象者への医療費助成
	第6期計画への継続 (継続有り)		年度達成率	88%	88%	0%	0%
	全体達成率	22%	38%	38%	38%		
	事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆☆☆				

事業名	重度心身障害者医療給付事業	評価者 管理職 職氏名	保健福祉課長	豊田 通敏
		評価者 作成者 職氏名	保険給付係長	川口 敦史

様式1
平成26年度実施
平成27年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	重度心身障がい者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	全対象者に対する受給者証の交付	
【抱える課題やニーズは】	重度心身障がい者の健康の保持と福祉の増進	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	健常者より医療受診機会の多い重度心身障がい者に対し医療費の助成を行い、医療を受ける機会が損なわれることのないよう、医療受診環境の整備を図る。	① 受給対象者数/受給者証交付者数 83名/83名=100%	目標年度	平成26年度
			目標値	83名
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	重度心身障がい者の医療費の負担軽減、並びに、健康と福祉の維持・増進を図る。	②	実績値	83名
			達成度	100.0%
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	受給者証の発行	申請を受理し認定者へ受給者証を発行した。	目標年度	平成26年度
	医療費の助成	医療機関では受給者証所持者の医療費の支払いを窓口で軽減し、その分を国保連合会へ請求、国保連合会が町へその医療費を請求し、町は支払処理を行った。	目標値	
			実績値	
			達成度	#DIV/0! %

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	社会的弱者に対する支援であり、また、北海道医療給付事業の一つでもあることから、不実施の市町村は皆無です。
必要/概ね必要/課題あり		全部 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	対象者の医療費を公費負担することで、重度心身障がい者の医療受診環境を整備を図る。
有効/概ね有効/課題あり		達成 ほぼ達成 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	福祉医療システムを活用し、受給者証の発行等、事務の効率化を図った。
効率的/概ね効率的/課題あり		事業費抑制 人員削減 時間短縮・作業軽減 その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	必要条件を具備していれば、医療費の助成を受けることができるので公平である。
公平/概ね公平/公平でない		受益者負担がある 受益者負担がない 受益が一部に偏る その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
重度の障がい者に対する医療費軽減は生活と福祉の向上を図るうえで、計画どおり事業を進めることが適当である。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
疾病の早期診断と早期治療を促進し、重度の障がい者の保健の向上と福祉の増進を図るため、必要性の高い事業である。		

- ※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止